



高崎中学校だより

生徒が生き生きと活躍する「生徒が主役の高中」



校外での活躍(表彰等)

10月は、校外での生徒の活躍が多数ありました。一部をご紹介します。

熱中症対策標語コンテスト大塚製菓賞

【3年 中村 愛理さん】

交通地域安全作文入選

【2年 柿木 琉晴さん】

都城市景観絵画コンクール銅賞

【3年 山白 采加さん】

宮崎県デザイン絵画コンクール芸術学科賞

【1年 山白 幸未さん】

様々な分野での生徒の活躍は、本当に誇らしいものです。上記以外にも少林寺拳法全国大会上位入賞、県中体連出場(サッカー、女子バドミントン)があります。

今後も「生徒が主役」、生徒が輝く学校づくりを推進していきます。



【宮崎県デザイン絵画コンクール表彰式の様子】

ボランティア活動で地域貢献

まちづくり協議会からの依頼で芋掘りボランティア活動を行いました。苗植えから始まり、今回が3回目の活動(収穫)。多く参加者と共に積極的に活動することができました。



また、10月20日(日)には「みいけ、やまびこ祭」に吹奏楽部が演奏を行い、祭りを盛り上げました。この日は「笛水地区の祭り」でも演奏を行うなど大忙しの吹奏楽部でした。今

後も様々なボランティア活動で地域に貢献していきたいと思ひます。

教頭の霧島日記

～非認知能力とは～

最近教育界現場でよく使われる言葉に「非認知能力」という言葉があります。

非認知能力(スキル)とは、意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、測定できない個人の特性による能力のこと全般を指します。学力(認知能力)と対照的に用いられる言葉です。



(南城市HPより)

非認知能力が幼児期に養われると、その後の成長に差がでるといふ欧米でのデータがあります。例えば「IQ」と言われる知的能力が高くても、「耐性」や「粘り強さ」がなければ学力は向上しません。また、知識とは活用することに意義があるものですから、読み書きに関する知識があっても使わなければ意味がありません。つまり、「非認知能力」と「認知能力」相互互換の関係にあると言えます。

昔、先輩の先生に「草取りをできる生徒にしてください。」と言われたことがあります。草取りが生徒の成長に関係するのか半信半疑でしたが、まさに「非認知能力」(耐性)の向上です。また、祖母の教えに「玄関とトイレはきれいにしてください。」と言われたことがあります。

実は、昔から伝わる「教え」や「伝統」にこそ「非認知能力」の本質があるのかもしれない。

是非、家庭でできる非認知能力の育成に取り組んではどうでしょうか。

今後の日程

10月26日～ 県中体連大会(サッカー競技)

11月1日、2日

県中体連大会

(女子バドミントン競技、柔道競技)